

もくじ

- 2~3. うきうきルーム開設!! 「ひとりじゃないよ」
堺市中区で子育て広場が始まりました。
- 4~5. SAYの会 : テートDVプログラム紹介
- 6~8. HR(Human Rights プロジェクト)

「目👁️・耳👂・ハート❤️はきくあいず」
- 9~10. 大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業 報告
「障がいのある子どもが性暴力の
被害者にも加害者にもならないために」
「発達障がいのある子どもの“性”について」
- 11~12. 関西CAP連絡協議会・交流会
「『体罰』容認社会
～一人ひとりの意識を乗り越えていくために～」
- 13. 関西CAP連絡協議会&堺CAPプロジェクト報告
- 14. 事務局からのお知らせ





うきうきルーム(中区子育て広場) 3月1日 OPEN!

3月1日午前10時。

中区区長と来賓の方の挨拶後、テープカットで、祝開所!

えんばわめんと堺が子育て広場の運営に携わるのは初めてのこと。

オープンの日、「どれくらい来てくれるんだろう?」とドキドキしましたが、たくさんの親子が訪れて、ほっ。

外は、強い風が吹いて3月とは思えないほどの寒い日でしたが、うきうきルームの中はたくさんの親子でポカポカしていました。



私たちのコンセプトは、「ひとりじゃないよ」

子どもを育てる・人を育てる役割ほど大変なものはない。しつけや指導で、言うことをきかない、思い通りいかないことって誰でもが経験していることなのに、子育てに関しては世間や社会の目は厳しい。

子どもの人権をベースに20年近く活動してきた私たちのエンパワメントの関わりは、子どもも一人の人として向き合い、子どもは誰かのものではなく、大切にされて当然というスタンス。子どもも親も「わたしはわたし」と一人ひとりが自分も他者も大切にし、つながるそんなひろばを創りたい。

「わたしのせい・・・?」「わたしなんか・・・」と思ったとき、「ひとりじゃないよ」というひろば・うきうきルーム(中区)に来てください。(きたの)





オープニングイベントとして、親子でパラバルーンをしました。

パラバルーンの中にもぐってみたり、ひっぱったり、と好奇心旺盛な子もいれば、気になるけど、なかなか輪に入れない慎重な子もいて、個性が色々。



感想

広報さかいで知って、オープン初日には来ようと思っていた

検診に来たら、下で子育てルームがオープンしたと聞いて来ました

また、来たい！

家に居ると大変なので、夜も寝ないし... 近くにこんな広場ができてよかった

暖かくなるので、そろそろ外に出ようかと思っていたら、新しい子育て広場がオープンすると聞いたので

子どもと一緒にからだを動かすような活動があればいいなあ～





SAYの会

つきあっていたら無理や
キスしてもあたりまえやん！
良いに決まってる

好きかどうかより、
つきあってるってことが
かっこいいやん～

出会った子どもたちの
しづかさ

マンガやテレビで、嫉妬
とかあるし、少しくらい
の束縛はあって普通やろ

親のDVがあっても、貧しい
ので簡単に離婚すべきとは
言えなかった・・・

暴力で解決しようとする
人をどうやってなだめたら
いい？

女の子はちょっとぐらい
イヤがってみせたほうが
かわいいやろ？

2015年SAY（性・生）の会では、大阪府内の中学・高校（支援学校含む）17校でワークショップを開催しました。のべ2995人の子どもたちと出会い、今感じていることや抱えている問題について語り合いました。おとなが築いた現代社会の中で、ジェンダーの偏見や誤った情報により生きづらさを感じていたり、おとな同士の関係性の影響から傷ついていたり・・・おとなとして責任を感じるとともに、課題や問題の背景にある「性」というものを、人権の視点でしっかりと伝えていく必要を改めて感じる1年となりました。

ESの樹No.21号で予告していた高校生向け依頼で一番多い「デートDV」をテーマにしたプログラムを紹介します。





高校生プログラム例

テーマ「デートDV・自分も相手も大切にするコミュニケーション」

*SAY（性・生）の会の紹介

「性」はひとことでは言い表せない多様なもの。

生きていくうえで大切な性について真剣に語り合おう。

*DVって何？どんな暴力がある？

力関係の中でおきる暴力。特にDVの中でおきる暴力について考えよう。

*背景にあるジェンダーについて

ジェンダーが与える影響について考えよう。

*ロールプレイを見ながら考えよう

あらすじ：《俺と部活のどっちが大事やねん！》と怒鳴るパートナー。怖さからついその場をおさめようと相手にあわせてしまう。「本当に愛されてるのかな？」と不安になる。

*アサーティブなコミュニケーションの紹介

自分の気持ちに向き合い、自分も相手も大切にす対等な人間関係を築くためのスキルについて



こんなことがDVのきっかけになるなんて驚いた。でも確かにそのとおりだなとすごく納得した

マンガや映画を見ることも多く、CMのシーンも男女の役割分担があるんだそれを素敵だと思ってしまっていた

プログラムについてのお問い合わせはえんばわめんと堺・SAY（性・生）の会までお願いします。

受講後の感想

私も相手をコントロールしてしまう側になる可能性もあるなあ～相手と対等な関係を築けるよう気をつけて生きていきたい

自分に決して無関係なことではないと思った

こういう話はなかなか学校ではしないので、新鮮で有意義な機会だった

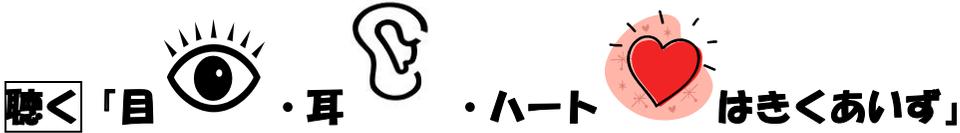




HR(Human Rights)プロジェクト

2015年度、堺市、泉南市、箕面市、豊中市、柏原市の小学校・中学校で、「エンパワメント授業」を実施しました。子ども対象ワークショップの他にも、おとな対象（教育関係・福祉医療・子育て支援関係など）の講座も実施しました。

そして、今年度も私たちが最も大切にしている“聴く”こと…そして、この合言葉をたくさんの子どもたちに伝えました。



今回は小学校2校で3年前から実施しているプログラムを一部紹介します。

けんかやトラブルが起こった時に、子ども同士で解決していく方法を学び、実践につなげるプログラムを、『ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！』（池島徳大監修・著 竹内和雄著 ほんの森出版）という本を参考に実施しました。

家庭や学校でけんかが起こった時に、周囲は「見て見ぬふりをする」「どっちもどっちやから」（けんか両成敗）、「どちらかの味方をする」というパターンになりがちで、当人は納得がいかず、気持ちがもやもやしたり、イライラしたりすることも多いようです。また、スッキリしない気持ちは他者を傷つけたり、自分を傷つけたり、また、モノにあたってしまうこともあります。



けんかをしないのではなく、けんかが起こった時に、お互いの考えや気持ちを上手に伝え、話し合いで解決につなげていく「ピアメディエーション（子ども同士によるトラブル解決）」を学校と協力関係で進めていきました。

事前授業で、「怒りの感情を知る。Ex.自分の怒りの感情について知る、“いかりの温度計”や扱い方」、「すてきな頼み方」「納得のいく断り方」をした後に、ピアメディエーションの実践に向けて、具体的な方法をロールプレイで考えながら、進めていきました。ここで大きな役割となるのが『メディエーター』です。『メディエーター』はどちらかの味方をしたり、自分が判断して解決したりするのではなく、双方の言い分や気持ちを平等に聴き、すっきり解決に導く役割をする人です。子どもたちが誰でも『メディエーター』になれるように…そのことを目的にプログラムを作成し、最終的にはロールプレイで何人かの子どもたちにも実際にやってもらい





ました。緊張しながら、みんなとても上手に『メディエーター』役をしてくれました。
この授業のあと、5年生のAくんが、たまたま4年生のトラブルに遭遇し、『メディエーター』役をかってでた話を先生からお聞きしました。残念ながら、うまくいかなかったようですが、私たちはとても嬉しい気持ちになり、翌日Aくんに会い、その行動を讃えました。今回はうまくいかなかったとしても、彼のこの行動は本人の自信にもつながり、また、周囲への刺激にもなり、次回につながるきっかけになったと思います。子どもたちの感想用紙にも「私もメディエーターをやってみたいと思いました。」「(メディエーターを)あまりやったことがないのでやってみます」と前向きなものがたくさんありました。
私たちもこれをきっかけに学校全体に『メディエーター』が増えていくことを願います。

—子どもの感想—

- *授業を受けて、言い方や話し合いのルールを学びました。メディエーターになる時に一人ひとりに確認したら相手もうれしくなるからこれからは気をつけてやろうと思います。
- *わたしは授業を受けて、メディエーターは大切だなと思いました。わたしも1回はメディエーターになって、物事を解決して、みんなをスッキリさせたいです。
- *メディエーターが4年〇組にいっぱい現れたらいいなあ♪と思いました。メディエーターがいたら、きっとクラスはみんな仲良しなクラスになると思ったからです。仲良しなクラスなら、朝から帰る時まで、みんながいい気持ちでいられます。それは素晴らしいことだと私は思います。そんなクラスをめざして、まず私からメディエーターの仕事をしたいです。

By ありちゃん

プログラムについてのお問い合わせはHRプロジェクトまで・・・



—HRプロジェクト 2015年度活動実績—

教育関係	<p>*子ども対象（学級単位・学年単位）</p> <p>＜堺市＞ 大仙小学校（全学年） はつしば学園小学校（2・4・6年生）</p> <p>＜豊中市＞ 西丘小学校（全学年） 南丘小学校（3・5年生）</p> <p>＜箕面市＞ 豊川北小学校（5年生） 東小学校（4・5年生）</p> <p>＜柏原市＞ 国分東小学校（1・2・3年生） 旭ヶ丘小学校（1年生） 国分小学校（4年生）</p> <p>＜泉南市＞ 西信達中学校（1・2年生） 雄信小学校（5年生）</p> <p>*子どもとおとな対象 柏原小学校（5年生と保護者）</p> <p>*おとな対象（教職員・PTA・一般） 豊中市立西丘小学校PTA</p>
行政関係	<p>*おとな対象（一般）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区子育てアドバイザー研修 ・大阪狭山市公民館 ・きらっとぴあ（大阪狭山市男女共同参画推進センター）
医療関係	<p>*おとな対象（一般）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソラスト（介護職員初任者研修） ・パークプランネットワークシステム（介護職員初任者研修） ・グローライフ（介護職員初任者研修）
その他	<p>*おとな対象（一般）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン「おたまじゃくし」 ・浜寺校区おもちゃ図書館 ・シニアボランティア ・堺高石青年会議所 ・関西福祉科学大学現代ソーシャルワーク研究会

障がいのある子どもが性暴力の
被害者にも加害者にもならないために

講師：益子^{ましこ} 千枝^{ちえ}さん（精神保健福祉士・福祉心理士）

支援者や家族が普段の生活の中でどのようにかわるかを、「兵庫県地域生活定着支援センター」相談員として、触法障がい者、触法高齢者の支援に携わっている講師の方が、お話してくださいました。

参加者の声

- *参加者の方々とグループワークでテーマについて深める話ができたのが、とてもよかった。
- *性暴力について、対人関係の中での「関係性の病」がやはりここにあると確認できました。
- *自分の勉強不足を実感し、「頑張ろう！」と改めて思いました。
- *えんばわめんと堺さんの「人」を大切に想う、考えるという思想が強く感じられました。

発達障がいのある子どもの“性”について
～発達障がいのある子どもが、自他ともに、
大切な“ココロ”と“カラダ”を守るには～

講師：伊丹 昌一さん（梅花女子大学 心理こども学部 心理学科 教授）

伊丹先生講演会、PART5！

今回は参加者のみなさんの感想や要望の中から、とてもニーズの多かった“性”について。発達障がいのある子どもの性トラブルについての具体的な支援方法をお話しいただきました。支援者がともに学び、少しでも不安を解消し、楽しく実践につなげ、子ども達がよりよい関係性を築けるように、子ども自身ができること、周りができることを学べた時間でした。質問事項にも丁寧に、そして的確にお答えいただきました。（参加者の声は次ページ）



参加者の声

- *知らなかったこと、なるほど！と思えること、たくさんありすぎて、まだまだお話を聴いていたいほどでした。
- *発達障がいをもつ子どもに限らず、どんな子どもに対しても通用することだと思いました。指導者側がとにかく正確な知識を持つこと、毅然と話をすること、この努力をしたい。
- *その子の行動に対して「ダメよ」と、言ってしまいそうでしたが、まずなぜその行動をするのか考えてから対応することが大事であると、私自身気をつけなければと思いました。
- *注目要求が強い子への対応方法として成功体験をつんでいくことを学びました。
- *個性豊かな子ども達との毎月を楽しんでいる自分をほめていきたいです。
- *将来のことを考えると不安がいっぱいで、被害にあうこと、加害にあうことばかり想定していましたが、ありもしない事で不安になっても仕方ありませんね。
- *まさに、実践から出てきた珠玉の言葉に感動、またまた名言いただきました。PART6を期待しています。
- *支援はあきらめたら終わりという言葉が印象的でした。
- *放課後児童支援の現場にいて、壁に当たっていたのですが、また自分をホメたり、仲間のよい所を見直して（ダメ出しでなく）、明日からもなんとかやっいていこうと思えました。
- *親、おとなとして子どものために環境を設定してあげることが大切だと感じました。
- *今日の講演会を通して、日常の支援の見直しの必要性を感じました。明日からもがんばります。



ローズカーニバル

今年も、5月15日（日）に浜寺公園で開催されるローズカーニバルに参加します。

フリーマーケットでの売上金および寄付金を利用して、子どもたちへのワークショップを届けます。フリーマーケットに出品する品物を提供してくださる方はES事務所までご連絡ください。





☆2015 年度関西CAP 連絡協議会 交流会☆

～「体罰」容認社会～一人ひとりの意識を乗り越えていくために～

今回の講座は、CAPスペシャリスト限定の交流会ではありましたが、龍谷大学教授：田村公江先生、元公立高校教諭でありご自身もソフトボール部の顧問・国体県選抜チームの監督・そしてスポーツ指導者の育成・研修などに取り組まれてきた：佐子完十郎先生、コーディネーターにはコアプラスの代表理事：武田緑さんを迎えて、「体罰」をテーマに3月12日に開催しました。



桜宮高校の事件から1年経った2012年、また全国各地でそして問題のあった大阪でも、体罰の事例や処分された先生の記事がいくつも挙がっていました。

あれだけ議論されていたのに何も変わってないやん。CAP（暴力防止）プログラムを実践し、子どもの人権を掲げるNPOとして何をしていくべきか、悩み考えていました。そして体罰をみんなで考えるネットワーク（前号参照）に参加

し、～体罰容認意識をいかに乗り越えるか～に取り組んできました。それから2年、何が変わったのか、変わらないのか、南大阪・堺で30数名のスペシャリストの皆さんと共に考える機会を持たたことは、大きな一歩だと思っています。

田村先生から「大学生の現状、体罰容認の背景にあるもの」を話して頂き、全体的に体罰が良くないという基本的な意識はあるが、特にスポーツ推薦で入学した生徒さんやスポーツで勝ち上がってきた生徒さんたちの中には体罰に対しての肯定論者が多くいて、その中には自身が体罰の環境の中で指導を受け、強くなった・いい成績を残せた・愛のムチで感謝している・少しぐらいの体罰で騒ぎすぎだ、などの強固な考えを持っている生徒がいる。ということ。

スポーツ以外に興味が少ない、他の世界を知らない人もいる。

そして、佐子先生のデータから見たスポーツの指導者になる者の意識についても、自身のこれまでのスポーツを学んできた環境から影響を受けていることが多く、その中に2～3割の内在する体罰肯定派がいることが分かった。スポーツの世界で厳しい指導＝体罰もやむを得ない。という風土がある以上、指導者・教員の良心だけに任せていては、子どもを安心して育てる場





の保証はできない。体罰に依らない指導方法を、外的リソースの活用などで支援していくことが必要なのでは？田村先生からは、スウェーデンの若いアスリートの権利（尊厳をもって扱われる権利など 10 の権利がのっている）などをアスリートに教えることも提案された。

事件の裁判は続いています。桜宮の元教師は裁判の意見聴取で体罰を振るった生徒が自殺すると予見しなかったのか？の問いに、今まで十数人に同じことをしてきたが、自殺しなかったこの生徒もしないと思った。と供述。先生であるにも関わらず、目の前の生徒に寄り添うこともなく、その生徒が沢山訴えていたにもかかわらず、自分の指導観だけに頼り、偏った体罰の指導を続け、子どもの命を奪いました。

先生という職種についている方の多くは、学校時代の評価では多くが成功者だと思っています。自分だけの経験則やサクセスストーリーが全てだと思い込む教育は危険極まりない。どんなにいい教育も指導観も全ての子どもに万能なわけではなく、多様な子どもを知り、子どもの話に心を傾け、子どもの人権を尊重した関わり・教育を、社会のオトナの一人として考えていかなければならないと思いました。



はしもと

*子ども権利条約フォーラム2016in 関西

日時：12月10日（土）13：00～17：00

11日（日） 9：30～16：00

場所：サクラファミリア教会（大阪市北区豊崎）

1993年から全国各地で開催されてきた「子ども権利条約フォーラム」を、今年で20年ぶりに大阪で開催します。えんばわめんと堺も、子どもの人権について活動している多くの他団体のみなさんとフォーラムを作ります。詳細はまた次号でお知らせします。



☆2015年度関西CAP（子どもへの暴力防止プログラム）連絡協議会☆

CAPを実施しているグループは、北海道から沖縄まで全国に多数あり、日々子どもたちに「安心・自信・自由」を届けています。その中で、関西で活動しているグループがお互いにつながり、情報を共有・交換する場として年に1度関西CAP連絡協議会を開いています。

3月12日に堺CAP担当で堺市産業振興センターで行われました。今回は和歌山で活動されているハッピーママライフさんが初参加され、新しい仲間が増えました。近況報告をしながら、各地域でのCAPワークショップの現状などを話し合いました。各グループの工夫などをお互いに聞きあい、CAPプログラムが今の子どもやおとなに必要なことをあらためて認識しました。CAPワークショップを広げるには、資金も必要であることを前回の会議で話題としてあがりましたので、今回の会議では、SNSを利用し広報する方法や、資金調達のためのクラウドファンディングの基礎知識を伝えました。グループにあったアプローチのヒントになったと思います。こうして、CAPという共通な思いのあるグループの皆さんと、1年に一度会って話をすることは、素敵なことだと思いました。（ふじた）

堺CAPプロジェクト活動報告

2015年9月～2016年3月まで

	子どもワークショップ									おとなワークショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
9月	26	65	2011	0	0	0	0	0	0	27(26)	121(91)
10月	20	47	1433	0	0	0	0	0	0	20(20)	67(67)
11月	11	33	1144	0	0	0	0	0	0	11(11)	44(44)
12月	12	30	907	1	1	34	0	0	0	13(13)	44(44)
1月	4	12	414	1	1	21	0	0	0	5(5)	18(18)
2月	2	6	185	2	2	54	0	0	0	4(4)	12(12)
3月	1	2	41	0	0	0	0	0	0	2(1)	25(3)
合計	76	195	6135	4	4	109	0	0	0	82(80)	331(279)

☆CAPスペシャルニーズプログラム子どもワークショップ支援学校1校1ワークショップ13名

☆CAPセンター・JAPANと協働で障がい児の児童養護施設にCAPプログラムを届けました。

第14回ES総会&イベント ご案内

☆日時： 2016年5月21日(土)

・総会—13:15~14:30 ・イベント—14:40~16:00

☆場所： 堺市産業振興センター

☆イベント内容：えんばわめんと堺の子育て広場の紹介

地域の広場「陽だまり」による

『子育てひろばでする手遊び「あ・そ・び」から学ぶ』

ESのホームページが大幅にリニューアルしました！！

ぜひ、アクセスしてみてください！ <http://www.npo-es.org>

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金3,000円)

賛助会員 1,000円(入会金なし)

◎ 更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。

◎ 会員有効期間は1年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

特定非営利活動法人えんばわめんと堺/ES

TEL:072-230-5588 FAX:072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

正会員 30名

賛助会員 94名(101口)

2016年 3月

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願ひいたします。



編集後記

この春、うきうきルームがスタートし、新学期が始まると、CAPをはじめ様々なワークショップもスタートするので、ESは大忙しの1年になりそうです。

うきうきルームでは「こどもの力を見つけるディ」など、ワークショップも企画しています。わたしのスタッフの初登板は来週。2、3歳くらいのが子を育てていた頃、他人と比べてしまったり、自己嫌悪になったりしたことも思い出しながら、「大丈夫よ」の気持ちで、うきうきルームに来る子ども達と関わりたいです。わくわく・ときどきの春です。

(しおざき)